

秦野市立西小学校での環境教育「はだのエコスクール」の報告

令和2年1月21日(火)10:40~12:15、3年生3クラス(99名)を対象に、『野生動物と共に生きる』をテーマに体育館で環境授業をおこないました。

★野生動物ってなあに？(30分)

はじめに、うちわの色(白と緑)を使って2択のクイズ形式で出題し、動画を見ながら身近な野生動物について学んでもらいました。第1問:タヌキ足跡はどっちだ?答:4本指、第2問:泥浴びが好きなのはどっちだ?答:イノシシ、第3問:冬眠するのはどっちだ?答:ツキノワグマ、第4問:シカの好きな食べ物はどっちだ?答:○草木 次に、ニホンジカが増えているか、減っているかを子どもたちに尋ねました。増えている! 続いて、ニホンジカが増えていることが、「どうでもいいのか!」子どもたちに考えてもらうために絵本の読み聞かせをおこないました。①なんでニホンジカが増えると困るか?—自然のバランスが悪くなる。植物がなくなると、たくさんの虫や動物が生きられなく。交通事故などが起き、シカの命も人間の命も危険に合う。ハゲ山だらけになり、綺麗な景色が見られなくなる。→ニホンジカが増えることは「どうでもよくない!」。②なんでニホンジカが増えているのか?—山で暮らす人が少なくなった。猟をする人が少なくなった。③ニホンジカが増えない様にするには?—あなたのちょっとした行動で未来をかえよう。例えば、こんなことでもいいです。自然のことを気にして見る。だれかに話してみる。山の中で遊んでみる。ニホンジカを食べてみる。→今、出来ること、身近に出来ることをやる。

★傷つく野生動物たち(どうして野生動物は傷つくの?)(25分)

野生動物の保護原因をパワーポイントで見てもらい、それについて学んでもらいました。ケガ・病気などで傷ついて保護される野生動物は哺乳類より鳥の方が多い。その保護原因は①ガラス窓への衝突、②ネコによる被害、③巣立ち雛の誤認保護、④網・釣糸にかかる、⑤交通事故、⑥病気、⑦海のゴミなどの人為的原因。これは「どうでもよくない!」。人為的原因に対し、みんなが少しだけ気をつければ、傷つく野生動物たちを減らすことができる。→今、出来ること、身近に出来ることをやる。

★野生動物展示ミニツアー(30分)

6グループに分かれて、「ふれあい動物(①タヌキ、②フクロウ、③オオコノハズク、④チョウゲンボウ)」「⑤鳥類展示(メジロ・スズメ・ヒヨドリの写真・羽根標本・巣、ツバメの全身骨格標本)」「⑥哺乳類展示(ニホンジカ・イノシシの頭骨標本(オス・メス)と足の剥製、ニホンジカ・エゾシカの角)」の6つを、スタート地点を変えて5分ずつ順番に回って見てもらい、間近に見て触れてその動物の特徴などについて学んでもらいました。そこではスタッフは説明をし、質問を受けました。子どもたちからは、たくさんの質問が飛び、時間が足りないほどでした。子どもたちの好奇心は素晴らしいと、いつも思います。

子どもたちは、この前に学校の授業で「人と動物とどちらが大切か?」を学んだ。命あるものは共に大切!そこで先生の申込から今回の授業をおこなうことになった。「野生動物と共に生きる」には、まず野生動物について知ること、興味・関心を持つことが大切。また「野生動物と共に生きる」ためには、野生動物のために今、出来ること、身近に出来ることを考え、それをやるのが大切なことを子どもたちに伝えることが出来たと思います。

小野茂生

・授業風景



★野生動物ってなあに？



★傷つく野生動物たち

★野生動物展示ミニツアー



①タヌキ



②フクロウ



③オオコノハズク



④チョウゲンボウ



⑤鳥類展示



⑥哺乳類展示

